中部経済新聞　2022年11月21日（月）　16面

大日本木材防腐　インフラ資材から住宅資材へ

コンクリ製品普及で事業転換

変幻自在　老舗企業の挑戦

防腐木材の製造・販売などを手掛ける大日本木材防腐（DMB、本社名古屋市港区千鳥1の3の17、鈴木龍一郎社長、電話052・661・1502）は2021年に創立100周年を迎えた。創立当初は鉄道や電柱向けの木材を供給し、インフラ資材メーカーとして躍進。ただ、コンクリート製品の普及に伴い、住宅資材に事業転換した。近年はSDGs（持続可能な開発目標）の観点から非住宅業界にも進出し、創立時のベンチャー魂を未来へつないでいる。

（野田哲示）

木材の防腐加工を手掛ける名古屋工場（1950年代）

DMBの前身は1921年に東京都で設立した日本舗装道路。主な事業内容は一般道路などの工事だった。その中でも、木製レンガ、枕木、電柱など道路舗装材料の防腐加工製造供給に将来性があると判断。社名を大日本木材防腐に変更し、本社を名古屋市に移転。23年には名古屋市南区で防腐工場の稼働に乗り出した。

49年には名古屋証券取引所に上場。朝鮮戦争の特需が追い風となり、枕木、電柱関連の事業で多量の受注を獲得した。受注の増加に伴い、名古屋工場の拡充再整備、四国、北陸工場の稼働を進めた。

63年ごろから主力事業の枕木、電柱の受注が減少。それに伴い、道路舗装材料から一般木材防腐部門の販売へと事業転換を図った。66年には米国産材のツガを防腐剤処理した建築用土台の製造を決断。耐用年数が当時主流だったヒノキ土台の3倍強で、ヒノキが高騰した影響もあり販売は好調だった。

鈴木龍一郎社長

米材を中心に外材製品をアピールするため、82年には第1回「82DMB現地挽き製品ビッグ・フェア」を愛知県飛島村で開催。海外から木材を大量輸入するビジネスモデルを構築し、コスト削減に成功した。83年には、住宅の柱や梁（はり）などを製造するプレカット専門のダッズ工業を設立し、現在における事業の枠組みが完成した。

非住宅業界にも進出　ベンチャー魂を未来へ

2017年には国内の住宅着工数が減少する中、関係会社の企業価値を向上させるため、経営陣による自社買収（MBO）で非上場化。グループ7事業者による「材惣DMBホールディングス」体制に移行した。

近年は保育園、クリニック施設など非住宅向けの木材供給にも注力している。直近では屋外使用を想定し、高耐久性能を実現した国産材「和錬（われん）」を販売。100年培った木材保存技術で開発した材木だ。

鈴木社長は100年継続できた理由について、「社会の変化に対応できる『環境適応企業』であるから。木材業界でも常に一歩先をいく事業にチャレンジしてきた」と説明する。また、「当社の源流である木材商『材惣』は江戸時代にルーツがあり、330年以上の歴史がある。DMBとしても100年を通過点に、社員一丸となってグループを発展させたい」と笑顔を見せる。

100年培った技術で開発した高耐久性能の国産材「和錬」